

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0195800016		
法人名	特定非営利活動法人 ほのか会		
事業所名	グループホーム ふるさとの丘		
所在地	長沼町東2線北15号		
自己評価作成日	平成26年3月1日	評価結果市町村受理日	平成26年4月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0195800016-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_2013_022_kan=true&amp;JigrosyoCd=0195800016-00&amp;PrefCd=01&amp;VersionCd=022</a>
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	平成26年3月31日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームを地域の方々に広く周知していただき、交流の場としてだけでなく様々な用途でご利用くださるよう町内会様等へ働きかけ、現在までに婦人会の方々の集会所として、また皆様へ催し物をご提供して下さる場としてご活用いただきました。普段でも近隣の方が気軽に遊びに来られることもあり、馴染みの関係ができてつあります。今後も幅広くご利用くださるよう地域の方々へ働きかけていきたいと思います。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「グループホーム ふるさとの丘」は北長沼方面に位置し、近くに小学校や町営住宅がある静かな住宅地の広い敷地内に立地している。元保育園の建物を改築し平成24年8月に開設した1ユニットの事業所である。芝生に「あづまや」とミニパークゴルフ場を作り地域に開放している。玄関内ホールを改造し事務所や浴室などを別フロアーに設けている。町内会や当事業所の夏祭りには相互に行き来し、利用者は事業所内の「地域交流室」で婦人会の集いに参加し地域高齢者と一緒に生け花を習ったり、ボランティアの演奏会も楽しんでいる。また月に数回は近隣住宅の高齢者が来訪して食事を共にする等、住民との自然な触れ合いが行われている。本部指導の下に管理者は年間の研修計画を立てて勉強会を行い、書類関係も整備している。月2回の会議で職員と話し合い、利用者・家族の意向を基に介護計画を作成し、理念を意識して職員は温かなケアを行っている。希望の病院受診を支援し、主治医と相談しながら重度化してもホームでの暮らしが継続できるように体制を整えている。今回は初めての外部評価であるが、現場の組織作りとケアの更なるステップアップに向けて、職員と一体になって具体的に進めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	定期的(ミーティング時)に理念を唱え、その意義についても管理者を含めたスタッフ間で確認し共有できるよう努め実践へと繋げています。	開設時に職員間で運営理念を確認し、「ゆったりと楽しく自由に、ありのままに暮らしの喜びと自信を地域と共に」との内容を作り上げている。月2回のミーティング時に全員で唱和し、職員はケアを行う中で理念を意識している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	運営推進委員様や町内会様へ当ホームを幅広くご活用いただけるよう働きかけ、現在までに婦人会の会合や地域の方々との交流の場として活用いただいています。	町内会や事業所の夏祭りには相互に行き来して交流している。生け花の先生を招き、事業所内で住民と一緒に花を活け、婦人会の歌の集いや編み物に参加している。ボランティアのフルート演奏もある。小学校の学芸会に招待され出かけている。	今後も、小学生と定期的な交流が出来るような場面づくりを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	まだ事例はありませんが今後、そうしたことへも取り組んでいきたいと思えます。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて当ホームの活動内容について報告し、そこでいただいたご意見を参考にサービスへ繋げられるよう努めております。評価への取り組みについては今後、報告していきたいと考えております。	今年度は運営推進会議を2回開催し、役場職員、地域の関係者、民生委員、家族の参加を得て、各報告の他、防災対策や感染予防について意見を交換している。会議に町内会代表の参加がなく、家族には口頭で参加を呼びかけているが、代表で1回のみの参加になっている。	地域との協力関係づくりに、地域の代表として町内会からの参加は重要なので、毎回会議に参加が得られるような働きかけを期待したい。またテーマを設定した会議案内と議事録を全家族に送ることも期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	長沼町の実施するサービス調整会議(月1程度)へ出席し他事業所とサービスを含めた実情や現状、困難事例等を報告し合い、様々な専門分野の方からアドバイスなどを受けられるような関係にあります。	本部が窓口になり書類手続き等も行っている。介護認定時の訪問調査員や年に1~2回は生活保護担当者の訪問があり、本人の状態などを伝えている。サービス調整会議には役場担当者も出席しており、情報等を得て参考にしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束となる具体的な行為をマニュアル化し共通の理解へと努め、身体拘束の排除に積極的に取り組んでいます。	法人共通のマニュアルにある「禁止の対象となる具体的な行為」の内容をミーティング時に確認し、更に理解を深める事を検討している。身体拘束禁止に関する勉強会を行い、禁止語等の言葉遣いで気になる時は注意している。日中は玄関に鍵を掛けず、利用者の様子を見て一緒に外に出ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待についての研修会(外部)へ参加し、学んだことを事業所全体で共有できるように内部研修の機会を設け、虐待が見過ごされることのないよう努めており、その防止についても力を入れています。		

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度を学ぶ機会があったが、これまでその制度を利用するに至るような事例はありませんでした。必要性があると判断した際には、それらを活用できるよう支援していきます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	口頭だけではなく文書も用い十分な時間をかけ説明を行い、納得いただけるよう努めています。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部者もみえる行事や運営推進会議等の際に意見、要望があれば話し合いの場を設け運営に反映させていきます。	毎月個別のお便りを送り、普段の様子をお知らせしている。家族の意見を参考に冬場の運動量を取り入れている。ささいな意見なども「苦情・相談等報告書」に記載し共有しているが、更に分かりやすい個別の記録方法も検討している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	よりよい職場環境をつくるためミーティングやその他、思いついた時等に意見、提案を出してもらい、それが反映されるよう話し合いの場を設け実行しています。	職員の意見や提案などは「連絡ノート」に記録しておき、月2回のミーティングに諮っている。特に必要な利用者の記録を担当制にしているが、業務の役割分担等は決めていない。日々管理者に意見を提案したり、職員間で情報を交換している。	職員の担当制で業務を分担し、管理者と職員が一体になって運営に参加できるような体制づくりを期待したい。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、やりがいや向上心を持てるよう個々の能力に合った責任ある仕事を任せ、それに見合った給与等を含めた労働条件の整備に努められています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	代表者は、管理者や職員がケアの質の向上を図れるよう研修の機会を確保していただき、実践へと繋げようことを推進されています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービスの質の向上やネットワークづくりを目的に同業者主催の研修や勉強会へ参加させていただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスの利用開始にあたり、ご本人が抱えている問題や不安へ耳を傾け安心できる関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始にあたり、ご家族の抱えている問題等を伺い信頼関係の構築に努めています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族がどのような支援を必要とし望んでいるのかを幅広い視野で見極め、柔軟な対応ができるよう努めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員はご本人を介護されるだけの弱い立場に置かず、互いに共生するものとしての関係性を築けるよう努めています。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員はご本人を支援する上でご家族へも協力を求め、ご家族参加型の支援となるよう努めています。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族と共にご本人の知人、友人やご自宅など大切にされてきた場所との関係を継続できるような支援に努めています。	以前からの知人や近所に住んでいた友人、また旅行仲間だった方々の来訪があり、月に1回は訪れる方もいる。家族の支援でお墓参りやラーメン店に出かけている。電話の取次ぎや年賀状の投函などを手伝い、関係が途切れないように支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員は皆様と皆様を繋ぐパイプとなり、孤立することなく互いに関わり合い、支え合えるような関係の構築に努めています。		

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等による退所後も定期的にご家族と連絡を取りつつ経過を見守り、状況に応じ相談や支援に努めています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	少しでもより良い生活を送っていただくため、希望や意向の把握に努めています。	フェイスシートやセンター方式の「個人の心身の情報」シートを介護計画の見直し時に作り直している。ほぼ会話が可能で、その中で意向や様子を見て利用者の思いを把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	限りある資源の中で、それまでの生活スタイルをできるだけ維持、継続できるよう生活歴等の把握に努めています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりに合った支援を提供するため、そうした現状の把握に努めています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケア会議の場だけでなく日頃いただいているご本人やご家族の意見等も参考に、ご本人の現状に即した介護計画となるよう努めています。	新規の介護計画は1か月後に見直し、その後は3か月期間で見直している。計画作成担当者はケア会議で評価を行い、介護計画を作成している。「介護経過記録」に短期目標の欄を設け、変化なども記録できるように記録の工夫を重ねている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活の様子を介護計画に照らし合わせながら記録へ記入し、職員間で情報を日々、確認しながら実践や見直しに活かしています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々状況に応じ、既存のサービスに捉われない柔軟な発想で対応するよう努めています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	安全で豊かな暮らしを提供できるよう地域資源を一人ひとりの暮らしへ結び付けることに努めています。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り、それまで通院されていたかかりつけ病院で希望の医療を受けられるよう、支援に努めています。	7割の利用者は町立病院を継続し、受診には職員が同行している。かかりつけ医の受診時には家族に口頭で健康情報を伝えている。受診内容を「介護経過記録」の欄に記載しているが、時系列で把握できるような記録の方法も検討している。	

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、入居者様が適切な診療、看護を受けられるよう看護職員へ一人ひとりの情報を的確に伝えることに努めています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院された際、安心して治療を受けられるよう、また認知症の進行が懸念されるため早期に退院できるよう、病院関係者と面会時や電話での情報交換、相談に努めています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化、終末期に向けた方針について契約書に明記されており、実際に状態が悪化しつつあり回復が見込めない可能性があるため医師より診断された場合、ご家族や医師と今後の方向性について協議し、実践へと繋がるよう努めていきます。	利用開始時に「重度化対応・終末期ケア対応指針」を文書で説明し、主治医の判断の下で看取りケアが可能である事も伝えている。現在はそのような事例はないが、終末期には看取りの希望を含めて関係者で方針を話し合う方向でいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	避難訓練を行う際に、初期対応等の訓練を合わせて行い、万一の場合に備えています。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時等の訓練を万一の場合に備え日中、夜間想定ともに行っています。地域との協力体制については近隣の方々が高齢化してきているという問題等があることから現在、協議中です。	消防署立会いで11月に夜間を想定した避難訓練を実施しているが、近隣住民の参加は得られていない。災害備蓄品類は保管しているが、地震等を想定した訓練は今後の課題としている。職員の救急救命訓練は未受講になっている。	次回の夜間を想定した避難訓練には、住民の役割を明確にし、町内会役員や近隣住民の参加を得ての実施に期待したい。地震に備えて、事業所内で安全面の確認を期待したい。また職員の救急救命訓練の受講を計画的に行う事を期待したい。
<b>Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	日々、その人の人格、誇りやプライバシーを損ねないよう意識して声掛けや対応に努めています。	接遇研修を行い、利用者への呼びかけは苗字に「さん」づけとしている。申し送りや記録は離れた所で行い、書類は事務所で適切に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	懇切丁寧な態度で接し、思いや希望を表現しやすい環境をつくることに努め、人格を尊重し自己決定できるよう支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	限りはありますが出来る範囲の中で最大限、一人ひとりのペースで希望にそった生活を送れるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着替えの際と一緒に洋服を選んだり、ひげが伸びていないか、髪が乱れていないか等に配慮するよう努めています。		

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	同じメニューでも一人ひとりの好みや状態に合わせた食材、硬さ、形状等に配慮し、簡単な調理、準備、下膳、食器洗い等ができる方についてはお手伝いをお願いし共同作業するよう努めています。	畑で収穫した野菜を食事に取り入れたり、かぼちゃ団子などを一緒に作っている。餃子作りや果物の皮むき、おやつの盛り付けを手伝ってもらう事もある。誕生日は、ケーキでお祝いしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事、水分が適正量、確保できるよう、一人ひとりの状態、習慣等に応じた支援に努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	朝、夕食後の2回、本人の状態に合わせた口腔ケアを心がけ、清潔保持に努めています。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の失敗を減らすため一人ひとりの排泄パターン、習慣を把握し、それらを活かした排泄の自立支援に努めています。	利用者の半数以上が自立しているが、全員の排泄を記録して必要に応じて声かけやトイレ誘導を行っている。夜間のみポータブルトイレを使用したり、おむつ交換で対応する事もある。声かけは、耳元で小声で行うように配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解し、食事や適度な運動を促すことで予防に繋がるよう努めています。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴に当てられる時間の範囲内で、できる限り一人ひとりのペースや希望にそった入浴を提供できるよう努めています。	入浴日は月、火、木、金の午後に行い、湯温や入浴順にも配慮しながら週2回以上入浴できるように支援している。希望に応じて午前中の中の入浴にも対応している。入浴を嫌がる時も、納得して入浴してもらえるように言葉かけなどを工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握した上で、その時々状況に合わせ臨機応変に対応し、安心して気持ちよく眠れるよう支援しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの薬の作用や用法、容量等について正しく理解し、日々の状態観察に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが充実した日々を送れるよう役割を持っていたり、楽しみごとを一緒に行ったり、また模索しつつ気分転換等の支援に努めています。		

グループホーム ふるさとの丘

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員が手薄の時や突発的な事情により希望日に外出できないこともあります。ご家族の協力を得たり、事前に行きたい場所などを伺うことで外出の機会を増やせるよう努めています。	天気の良い日は近隣を散歩したり、敷地内の花壇を見学している。庭でパークゴルフを楽しんだり、「あづまや」でお茶などを飲む事もある。冬季もドライブに出かけたり、雪かきを手伝う利用者もいる。年間行事でお花見や紅葉見学に出かけている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を遣われる機会は少ないのですが、持っているだけで安心するという方も多いので、管理できる方については所持していただいています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があればご家族や大切な方へ電話を取り次いだり、手紙を代筆し送るといったところまで等の対応に努めています。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間を出来るだけ快適にご使用いただくため、狭くしたり障害となる物を置かないことやいつも綺麗な状態にしておくことに心がけています。また室内に光や風等を取り入れる際は、不快とならないこと等へ注意を払い「住みよい家」となるよう努めています。	広々とした開放感がある玄関ホールを改造して、居間などの共有空間と独立させて浴室を設けている。対面式のキッチンで、調理の様子や料理の臭いを身近に感じながら過ごす事ができる。居間のソファに座りながら広々とした庭を眺めて、落ち着いてゆったり過ごす事ができる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間のスペースを広くとり、一人ひとりが思い思いに過ごしていただけるよう表情や行動等へも注意を払い快適な空間づくりに努めています。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人やご家族と相談、確認しながら、居室へはできるだけ使い慣れたもの、好みのものをお持ちいただき居心地よく過ごしていただけるよう努めています。	各居室にベッドとタンス、ハンガーパイプ付きの棚が設置されている。家族の写真や自分の作品などを飾ったり、馴染みの小物類を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるような環境作りを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人ひとりの日々の状態やその時々々の危険を予測していき、「できること」や「わかること」を活かし、安全かつできるだけ自立した生活を送れるよう努めています。		

目標達成計画

事業所名 グループホーム ふるさとの丘

作成日：平成 26年 4月 10日

市町村受理日：平成 26年 4月 17日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4	運営推進会議へ参加されるご家族が、特定のご家族となっている。	多くのご家族の参加が得られるようにする。	・ご家族の皆様へ運営推進会議のご案内をする。 ・参加出来ないご家族については、意見・要望等を事前に伺う。	1年
2	30	受診記録が介護記録と一体となっており、経過が分かりづらい。	時系列でわかりやすく受診記録が見られる。	・介護記録と受診経過記録を別のものでしてファイルする。 ・受診記録は時系列で記載でき、わかりやすく見やすい書式を工夫する。	3ヶ月
3	35	避難訓練へ地域住民の方々の参加が得られていない。	地域住民の方々の参加が得られるようにする。	・地域住民の方々の参加が得られるような働きかけにホーム全体で取り組んでいく。	1年間
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。